

2018年と様相が異なる2019年の米ドル相場

FRB議長の米利上げ打ち止め示唆から、米ドル高局面は転換点を迎えた可能性

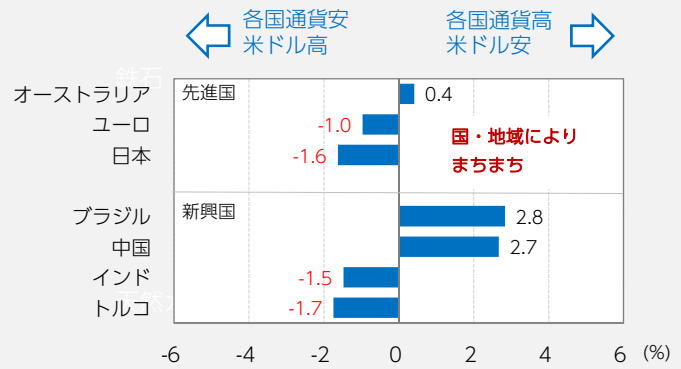
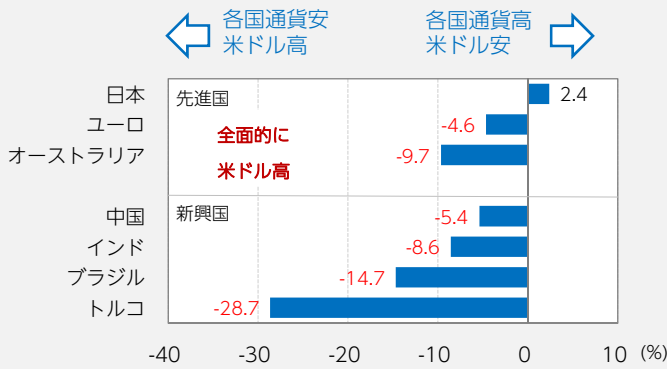
- 米連邦準備制度理事会（FRB）は2018年に政策金利*を4回、「1.25-1.5%」から「2.25-2.5%」へ引き上げました。米金利上昇を背景に米ドルの相対的な魅力が高まり、2018年は日本円を除き全面的に米ドル高となりました（左図）。
- しかし、2018年11月にパウエルFRB議長が今後の利上げ打ち止めを示唆して以降、米ドル高局面は転換点を迎えつつあります。2019年の対米ドル相場は国・地域によりまちまちの動きとなり、選別的な動きが進行しています（右図）。

*フェデラル・ファンド金利（FF金利）の誘導目標レンジ

【主要国通貨の騰落率（対米ドル）】

2018年（2017年12月末～2018年12月末）

2019年（2018年12月末～2019年3月4日）



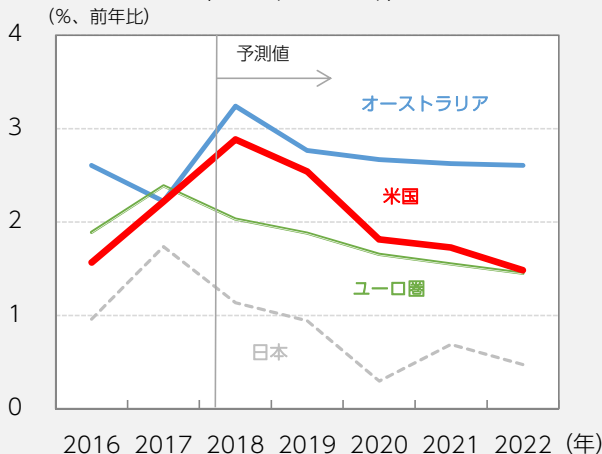
(出所) ブルームバーグ

利上げ打ち止め示唆の背景は経済減速懸念、市場は追加利上げなしを見込む

- FRBが利上げ打ち止めを示唆した背景には、減速が予測されている米国経済に対する配慮があると考えられます。IMF（国際通貨基金）によると、米国の実質GDP成長率は2018年の+2.9%から、2019年は+2.5%、2020年は+1.8%と減速が予測されています（左図）。
- 2018年12月時点のFOMCの見通しでは、2019年の追加利上げは「2回」と見込んでいます。これは、2018年9月時点の「3回」から1回引き下げ、利上げペースを緩める姿勢を示したことを意味しています。一方、足元のFF金利先物をみると1回の追加利上げも織り込んでおらず、市場は2020年に向けての利下げの可能性も視野に入れ始めています（右図）。

【先進国の実質GDP成長率】

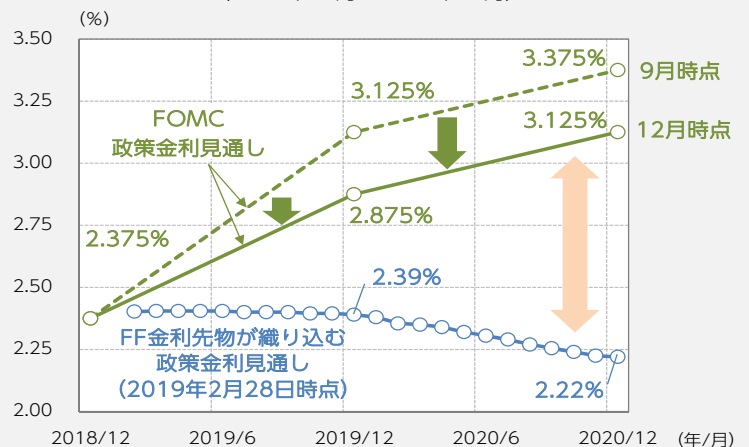
(2016年～2022年)



(出所) ファクトセット ※2018年以降はIMFによる予測値

【FF金利先物とFOMC政策金利見通し】

(2018年12月～2020年12月)



(出所) 米連邦公開市場委員会（FOMC）、ブルームバーグ
※FOMC参加者の政策金利見通しは中央値

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>